

ウィズユー

あなたと
いっしょに

With you

第11回

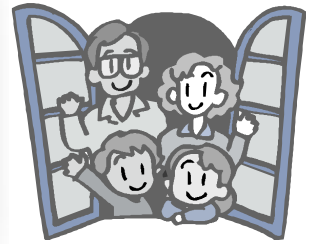
男性も女性も働きやすい職場に

—平成14年度 八戸市民の男女共同参画に関する意識調査から—

八戸市は、性別にとらわれず、一人ひとりが個人として尊重される男女共同参画社会の実現をめざしています。

そこで、市民の意識の現状を把握するため、平成14年度に市民の皆さん3,000人を対象に、「八戸市民の男女共同参画に関する意識調査」を実施し、1,920人（回収率64.0%）に回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

その調査結果から、今回は『職場』について取り上げます。



▼職場は男性優遇？▲

男性が優遇されていると感じているのは、①「社会通念・慣習・しきたり」、②「政治の場」、③「職場」の順になっています（図1）。

その中の「職場」については、男女ともに70%以上が「男性優遇である」と感じています。

80代以上（回答者数26人）の人を除く年代では、女性の年代による意識の違いはあまりなく、それぞれの年代で7割以上の人が「職場では男性の方が優遇されている」と感じています（図2）。

その一方で、20～40代の男性は、その傾向が低くなっています。

これは、昭和61年に男女雇用機会均

図1 男性の方が優遇されていると思うのはどの分野ですか？（全体）

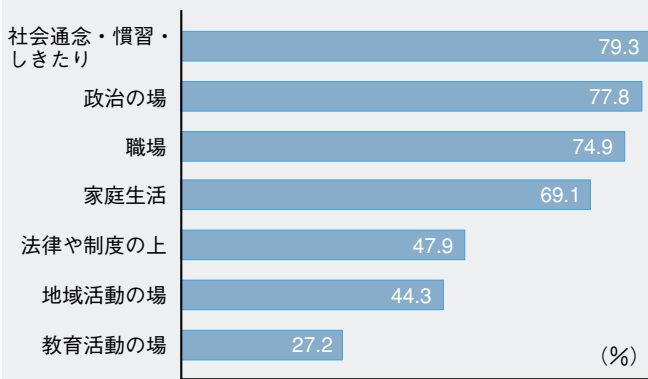
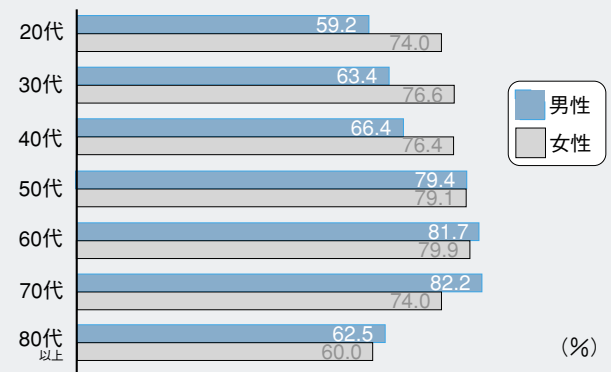


図2 「職場では男性の方が優遇されている」と回答した割合（性別・年代別）



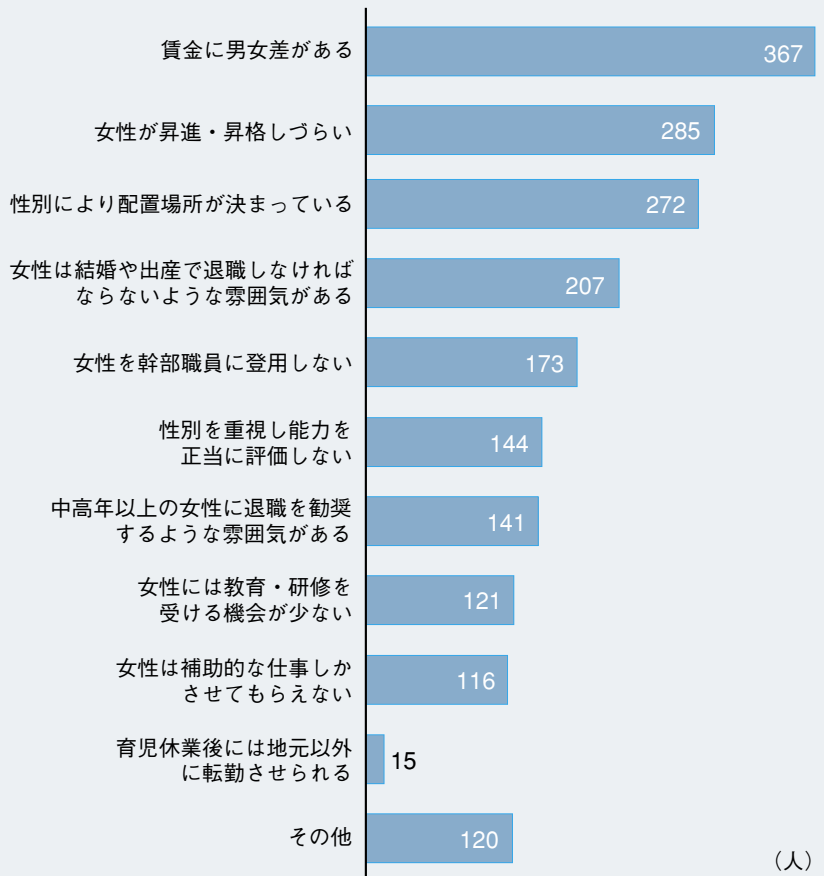
▼現実の問題▲

等法が施行され、職場での男女平等が少しずつ整ってきたことの現れだと思われる。しかし、20～40代の女性70%以上が、依然として「職場での男性優遇」を感じているのはなぜでしょう。

実際の職場では、①賃金、②昇進・昇格、③配置場所に男女差があり、女性は「結婚や出産で退職しなければならぬ雰囲気」もまだまだあるようです（図3）。

また、アンケートの自由記述の中に「子どもの急病や、学校行事に参加したりすることに理解がなく、職場でいやみを言われる」という意見もあり、子育てをしている人にとって働きやすい

図3 あなたの職場では仕事の内容や待遇の面で次のようなことがありますか？（複数回答可）



職場とは言えないところもあるようです。反面、「女性も係長や課長職に昇進している」という意見もあり、それぞれの職場での取り組みに差が出てきていることもうかがえます。

▼女性の働き方▲

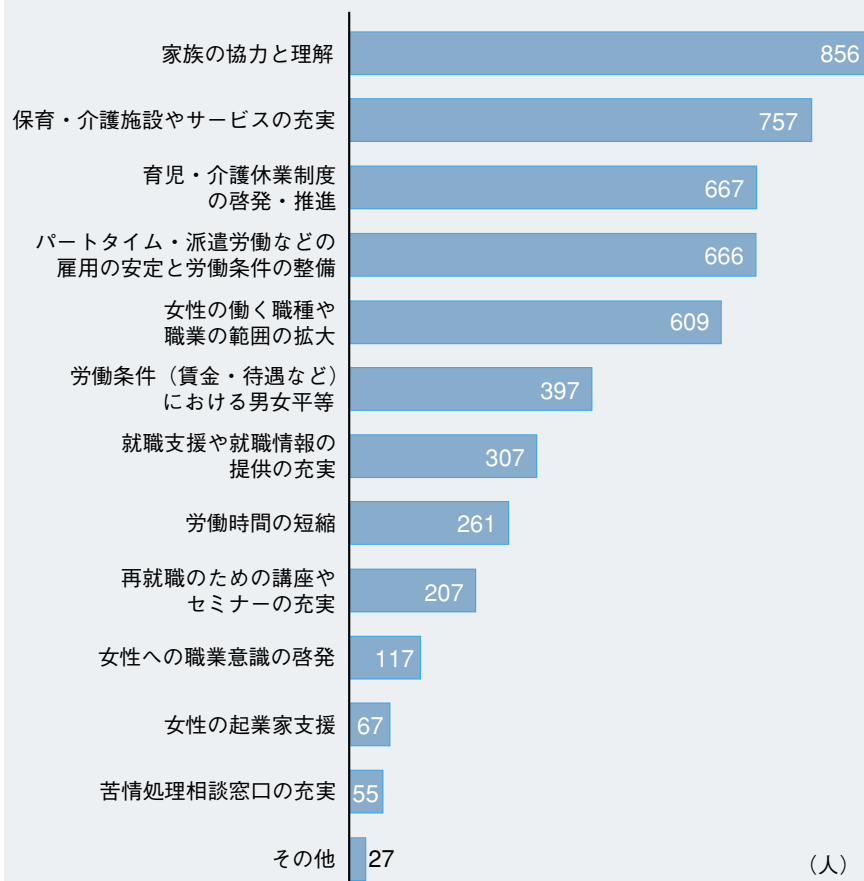
一般的に望ましい女性の働き方は、「子育ての一時期だけやめて、その後はフルタイム（常勤）で仕事をする」と

回答した人が男女ともに30%以上で一番高い結果でした。

しかし、現実にはそういう働きかたをしている女性はその半分で、一度退職した女性が正社員として再就職することや職場復帰は難しいようです。

また「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける」という働き方を理想とする回答も多く、特に男性の40～50代、女性の30～40代が高くなっています。その反面、男性の60代、女性の60～70代では低い結果でした。

図4 女性が仕事を続けるためにはどのような支援策が必要だと思いますか？（3つまで回答可）



▼期待される支援策▲

女性が仕事を続けるためには、①家族の協力と理解、②保育・介護施設やサービスの充実など、家族や行政への期待が高くなっています（図4）。

全体の約80%が、子育てなどで仕事を中断することがあっても、なんらかのかたちで働くのが理想と考えていて、特に女性にその傾向が強く見られました。

次に、③育児・介護休業制度の啓発・推進、④パートタイム・派遣労働などの雇用の安定と労働条件の整備などが続き、職場における男女共同参画の推進が期待されています。そこで、多様な柔軟な働き方を労働者が選択できるような取り組みを実践している「ファミリー・フレンドリー企業」について、次頁で紹介します。

▼ファミリー・フレンドリー企業▲

八戸市においては、平成11年度に(株)野月会館、13年度には八戸紙業(株)が「ファミリー・フレンドリー企業」として青森県労働局長賞を受賞しています。それぞれの関係者の皆さんに、お話を聞きしました。

ファミリー・フレンドリー企業とは？

厚生労働省では、次のような取り組みを行っている企業を讃えるとともに、広く国民に周知するため、ファミリー・フレンドリー企業表彰制度を設けています。

- 1年を超える育児休業制度
- 分割取得できる介護休業制度や、育児・介護のための短時間勤務制度
- 事業所内託児所の設置、育児・介護サービス利用料金の援助
- 女性労働者に限らず男性労働者も育児休業制度などを利用しやすい雰囲気職場にあること
- 「仕事と家庭の両立」について、経営トップ・管理者の理解があること など

「社員は家族！」

「充実の休業制度」
(株)野月会館 (平成11年度受賞)



左から釜谷さん、酒井さん、野月会長

「制度化される以前から、社員に合わせたかたちで、産休や育児のための遅刻早退を認めてきました。この制度には、経験を重ねたことを絶やすことなく、継続して勤務してもらうことについて、会社に還元してもらえらるという利点があります。また、家族の皆さんにも喜んでほしい、理解を得ることができています。家族的な社風ということもあり、制度はスムーズに受け入れられました」と人事担当の酒井さん。

勤続21年の釜谷さんは、「子どもは3人いますが、それぞれ育児休業制度を利用しました。また、介護休業制度も利用しました。休業中は、会社と同僚から仕事の状況や情報についての電話をもらい、また、自らも会社に向くように努めました。おかげで、今も仕事を続

けています」と生き生きとお話してくださいました。

また、野月会長の「社員は家族だと思っています。お互いに、助け合うというファミリー感覚で仕事をしていきます」という言葉が印象的でした。

「女性も働きやすい職場」
「全国からも注目集まる」
八戸紙業(株) (平成13年度受賞)



左：松下社長、右：坂下さん



左：奥寺さん、右：八木田さん

平成2年12月に育児休業制度を導入し、平成10年からは100%の取得となつていきます。また、平成9年11月には介護休業制度も導入されました。松下社長は「企業が制度に対応すること

により、従業員が意気に感じ、仕事への真剣度アップにつながっています」とお話ししてくださいました。

全従業員500人のうち42%が女性社員ということもあり、女性が働きやすい職場として全国から注目されています。秋田や京都からも見学者が訪れ、また社長もあちこちに講演に出向いているとのことでした。

「家族に手伝ってもらい、4人の子どもを育てています。この制度がなかったら、働き続けることは無理だったと思います」と勤続16年の奥寺さん。

また、勤続25年の八木田さんは、「介護休業も取得し、両立できています。職場全体がアットホームな雰囲気があるので、相談しやすいです。休業中も電話等で職場の情報を得られるので、勤務しているときと同じ気持ちで1年を過ごし、復帰も自然にできました」とお話ししてくださいました。

お話を伺った後、工場を見学し、大きな機械を自在に操作し、きびきびと働いている女性社員の皆さんに圧倒されました。



工場働く皆さんのようす

「男女共同参画社会を考えよう！
ちよつと言わせて五・七・五」コンクール
一般の部 最優秀賞受賞作品

男とか 女とかより 君自身
川村 裕太

一人ひとりが生き生きと暮らせるまちをめざして

八戸市男女共同参画基本条例 ポイント講座

—基本理念—

家庭生活における活動と他の活動の両立

男性にとっても女性にとっても、家庭以外での生活が生きるための活力になることがあります。仕事、地域活動、趣味、どれも大きな生きる喜びとなるものです。

社会の支援を受け、家族が助け合い、お互いの人生を尊重しあうことで、家族がより幸せになれるのではないのでしょうか。

性と生殖に関する健康と権利

男女のからだのしくみは大きく異なります。お互いのからだの違いについて理解を深め、自分の気持ちをしっかりと相手に伝え、生涯にわたって健康に生活を送れるようにしましょう。

また、お互いの意思で、安心して妊娠と出産ができるようにしましょう。

お知らせ

宝くじ文化講演会

「平成 15 年度女と男の明日を考える 八戸市民のつどい」

※今年度の「市民のつどい」は、宝くじ売上金の助成を受けて開催します。

講師 倍賞千恵子さん

演題 「歌うこと、演じること、そして生きること」

とき 平成 15 年 9 月 24 日（水）

開演 14:00（開場 13:30）

ところ 公会堂ホール

備考 手話通訳・保育室あり

※保育室は事前の申し込みが必要です。



入場無料

女性模擬議会

市内の女性たちが模擬議員になり、今後八戸市が取り組むべき施策などについて議場で質問する「女性模擬議会」を開催します。

とき 平成 15 年 10 月 24 日（金）13:00～16:30

ところ 市議会本会議場（市庁本館 3 階）

※本会議場傍聴席（先着順）、市庁本館・別館 1 階の市民ホールモニターでご覧になれます。

知って得する カタカナ用語

「エンパワーメント」 とは？

男女一人ひとりが、政治・経済・社会・家庭などのあらゆる分野で、自分のことは自分で決め、行動できる能力を身につけることをいいます。

特に女性の場合、さまざまな分野における方針の立案および決定の場への参画が大きな課題となっています。



編集後記

- 共働きだった 10 年前、子どもが熱を出して 2 日もすると、仕事のことが気になった。子どもにも会社にも申し訳ないと思いがちの綱渡り。今は、育休や病後児保育などの制度やサービスが整った。ファミリー・フレンドリー企業がもっともっと増えますように。（工藤）
- 今回は「外で働く女性」についての特集でしたが、それでは「家で働く女性」である主婦の方たちの状況はどうなっているのかなとずっと気になっていました。読者の皆さんのご意見・ご感想などを伺いたいと思っています。（羽田）



この記事は、一般公募で選ばれた皆さんが作成・編集しています。
今期の編集委員は、赤坂さん、工藤さん、羽田さん、藤村さんです。

問い合わせ 市民連携課（男女共同参画グループ）【☎内線 628】